

計画者	Asahidake Trail Keeper		☐ 計画箇所について、計画者と事業執行者が同一である場合はチェック	
担当者	氏名	藤このみ	電子メール	fuji.co.107@gmail.com
			電話番号	090-4204-0236
対象箇所	旭岳姿見の池園地			
作業の目的	雨天時、姿見展望台下の登山道では、登山道内の流水に加え、階段最下部で植生帯から水が流入する。階段最下部には古い導流工があるがあまり機能していなかった。それにより下流の登山道が水流で洗掘され、凍結融解も原因となりガリー化が進んでいる。道の両側の土留め石も脱落しており、放置すると周辺の植生を侵食することになる。ガリー化した路面の歩行路確保と周辺植生の回復を促す土留工を行う。(古い導流工は現在改修中)			
利用する工法	分散排水工	☒ 床止工	☒ 土留工	マルチング工
	路面処理工	☒ 段差処理工	☒ 植生基盤工	その他()
作業予定日時又は期間	2019年9月6,7日		参加予定人数	2人(作業者)~多数(運搬)
			参加者内訳	参加者の一般公募
				☐ 実施する ☒ 実施しない
安全対策 (保険の適用、連絡網の整備等)	普通傷害保険			
主な資材とその調達(予定)	資材	数量	調達方法	
	石・礫・土砂(今回)	1m	☒ 現地採取 / 搬入(計画者の自己資金・寄付・その他)	
	石・礫・土砂(全体)	3m	☒ 現地採取 / 搬入(計画者の自己資金・寄付・その他)	
			☐ 現地採取 / 搬入(計画者の自己資金・寄付・その他)	
			☐ 現地採取 / 搬入(計画者の自己資金・寄付・その他)	
道具の貸し出し希望 (自然保護官事務所・森林管理署)	物品	数量	希望先	貸出予定日時
				返却予定日時
位置図(地形図、国立公園の公園計画図、国有林又は道有林の施業計画図など)			登山道管理水準	
			保全対策ランク	A・B ☒ C・D
			登山道の荒廃は年々進み、路床の低下が著しい。周辺植生も後退しており、まだ植生が残っているうちに回復させる必要がある。	
			利用体験ランク	☒ 1 2・3・4・5
			ガリー化が進行し、深くはないがグレードを考慮すると歩きにくい。また石が露出しており危険。	
※事務局記入欄				
国立公園	保護規制計画:	特別保護地区		
	利用施設計画:	姿見の池園地		
	事業執行者:	北海道	担当部署:	上川総合振興局環境生活課
土地所有	国有林・道有林・その他()		担当部署:	上川総合振興局南部森林室
天然記念物	該当あり・該当なし		担当部署:	東川町教育委員会
備考				

課題(問題点・作業の必要性)／ねらい・目標

水流による洗堀と凍結融解等により、①登山道の路床の低下・ガリー化②登山道両側の法面侵食・植生後退が進行している。①への対策として、段差処理を兼ねた土留工・床止工を行い路床を上げる(No.3)。②への対策として、①の土留工・床止工を利用した半埋没型の置石を設置する(No.4,5)。

施工方法(見取図、写真等)



導流工A (現在旭岳自然保護監視員により改修中。)



・導流工Aで全ての水を排出することはできないが、地点Bまでの区間で分散排水できる箇所がなく、今回は歩行路と植生回復のための土留め・床止め・段差処理等の施工とする。

備考

全体の施工には数年かかるため、今回は下流側から一部の施工とする。

課題(問題点・作業の必要性)／ねらい・目標

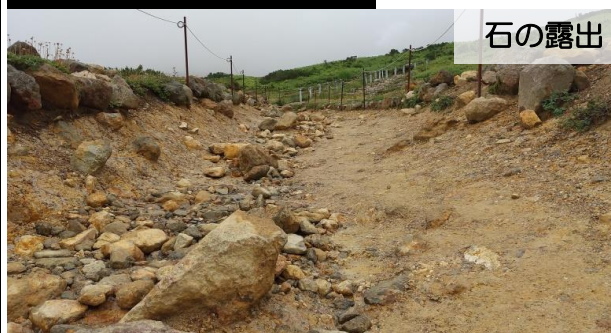
課題1、水流と凍結融解により登山道のガリー化が進み、石も露出しており、歩きにくい。

課題2、路床の低下により登山道両側の土留め石が脱落し、植生も侵食されている。

石組みで複数箇所土留めを設置し、石や土砂を充填して路床を上げ、平らな歩行面を確保する。

施工方法

施工予定箇所の状態



石の露出



ガリー化



土留め石の脱落

施工方法

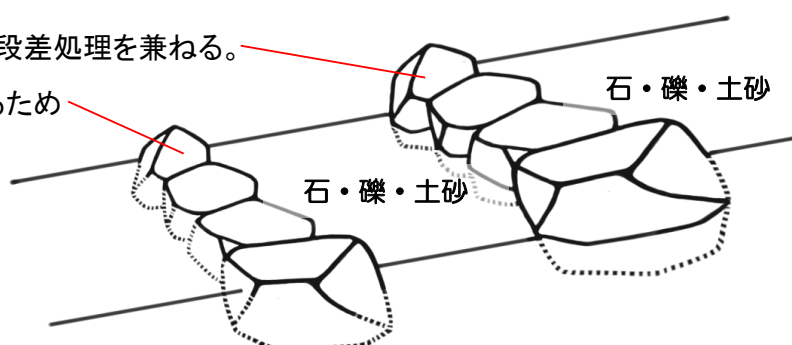


・複数箇所で土留めの石組みを設置し、石組み間を石・礫・土砂で充填する。

・石組みの両端は法面の土留めを兼ねるため、高めに設定し土砂が流失しない高さとする。

・必要に応じて段差処理を兼ねる。

・洗堀と土砂の移動を防止するための埋没型の土留めとする。



備考

土砂の運搬は、一般登山者・散策者に少量ずつ協力をお願いする。

課題(問題点・作業の必要性)／ねらい・目標

目標1、凍結融解現象を利用し、法面が安定勾配となるようにする。

目標2、法面周辺の植物の伸長と新たな出芽を促し、植被を回復させる。

安定勾配となり植被が回復するためには少なくとも数十年かかると思われるが、回復に向かう条件を作るための施工と

施工方法

施工予定箇所法面の状態



土留め石が脱落し、植生が後退している。



植被が覆っているが、石組みの下の土砂が流失すると侵食が起こると思われる。



石が外れ、植生の後退が予想される。

洗堀・侵食後に定着(発芽)したと思われる植物



・脱落した石の周辺では有機質土壌が溜まり、チングルマの幼木やミヤマアキノキリンソウ、コメススキの発芽が見られる箇所もある。

・これを参考に今回の施工を行う。

・登山道から1m以内で見られる主な植物種
チングルマ・ガンコウラン・コエゾツガザクラ・ミヤマアキノキリンソウ・コメススキ・クロウスゴ・シラタマノキ・ミヤマクロスゲ・ミヤマイ・キバナシャクナゲ・エゾイソツツジ・シダ類



備考

課題(問題点・作業の必要性)／ねらい・目標

施工方法

施工方法



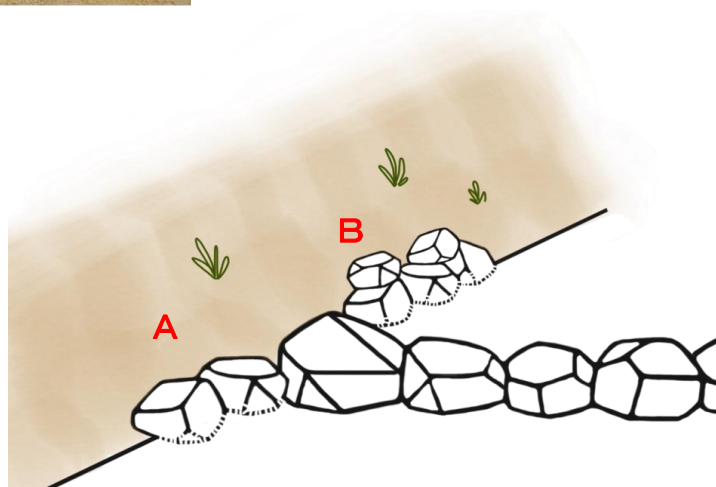
・導流工の改修により流水が減少しても、登山道両側の法面は凍結融解により侵食が進行する。

・法面下部に石を配置し、凍結融解により流れる土壌や植物片・種子等の流失を防ぎ、堆積と新たな発芽を促す。

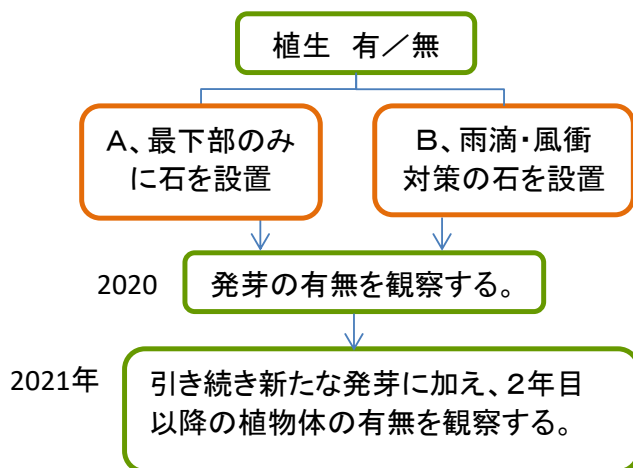
施工方法

A、法面最下部に石を一部埋没させて固定する。

B、最下部への石の設置に加え、雨滴や風衝の影響を少なくするための石を部分的に配置する。



・施工場所の上部に植生がある箇所とない箇所において、それぞれAとB両方の方法で施工し、経過(No.4の各植物の発芽の有無と成長)を観察する。



備考

課題(問題点・作業の必要性)／ねらい・目標
土砂採取予定箇所について

施工方法

土砂採取予定箇所



土石採取予定箇所①（地獄谷下流の涸沢）



土砂採取予定箇所②（旧噴気孔下流の沢）

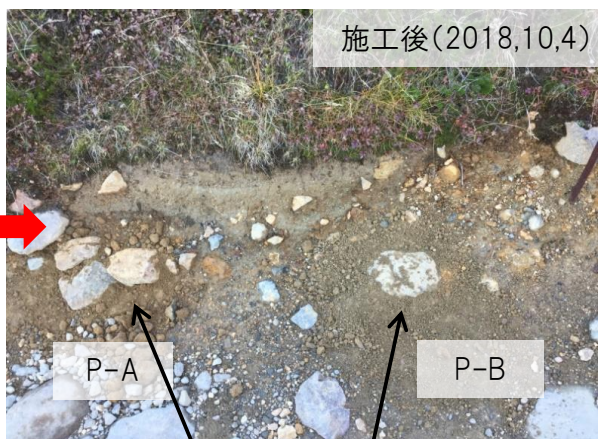
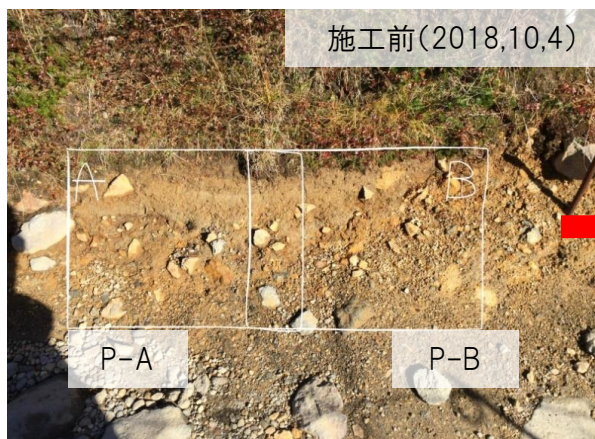


備考

土砂の運搬は、一般登山者・散策者に少量ずつ協力をお願いする。

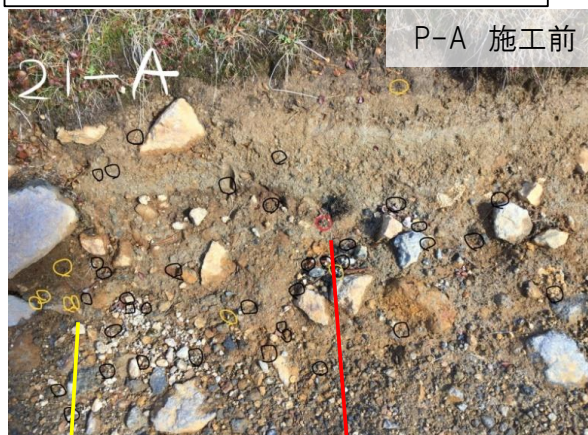
昨年度の施工状況と評価

2018年 実験的施工



・法面下部に石を半埋没で固定し、周辺の植物の定着を観察する。

施工前に目視で確認できた植物体



○ 芽：コメススキ ○ 芽：チングルマ ○ 芽：ミヤマアキノキリンソウ ○ 種子

備考

この箇所は上流に一部導流工(2017年施工)があるが、大雨の時は登山道内を水が流れる。
 土壌が流失した法面は大きくはなく、上部にはチングルマを中心とした植生がある。
 既にある芽や種子が、流水や凍結融解、置石の設置により受ける影響を調査している。
 置石は固定するため、半埋没状態とした。

昨年度の施工状況と評価



施工1年後(2019,7,18)

施工から1年後に目視で確認できた植物体



P-A 施工1年後(2019,7,18)



P-B 施工1年後(2019,7,18)



P-A 施工1年後(2019,7,31)



P-B 施工1年後(2019,7,31)

○ 芽：コメススキ ○ 芽：チングルマ ○ 芽：ミヤマアキノキリンソウ ○ 種子

- ・P-A,Bともに石の周辺に発芽が多く見られる。
- ・7/18-7/31の間では、出現した芽は特に減少せず、31日にはコメススキとチングルマが増えた。
- ・今年10月と来年7月以降にも観察し、凍結融解による影響を調べる。

備考

今回の施工予定箇所において、この途中経過を参考とする。
また、多様な条件で試行し、効果の有無や効率的な方法を模索する。